

石山 裕之（いしやま ひろゆき）

東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 咬合機能健康科学分野



【略歴】

2011年 日本大学松戸歯学部 卒業

2016年 東京医科歯科大学 博士（歯学）取得

2016年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 頸関節治療部 医員

2019年 東京医科歯科大学歯学部附属病院 頸関節治療部 特任助教

2023年 東京医科歯科大学病院 義歯科 助教

2024年 東京科学大学病院 義歯科 助教

2025年 東京科学大学病院 快眠歯科（いびき・無呼吸）外来 講師

【資格】

日本睡眠学会 歯科専門医

日本睡眠歯科学会 認定医・指導医

日本頸関節学会 歯科頸関節症専門医

日本口腔顔面痛学会 口腔顔面痛認定医

【著書】

・「睡眠歯科の羅針盤」医歯薬出版（分担執筆）

・「いびき!?眠気!?睡眠時無呼吸症を疑ったら～周辺疾患も含めた、検査、診断から治療法までの診療の実践」羊土社（分担執筆）

演題名：頸関節症の視点からみる閉塞性睡眠時無呼吸に対する口腔内装置治療のリスクマネジメント

抄録：

閉塞性睡眠時無呼吸（Obstructive Sleep Apnea : OSA）に対する口腔内装置（Oral Appliance : OA）療法は、軽度から中等度 OSA に対する保存的治療として広く普及している。一方で、頸関節症（Temporomandibular Disorders : TMD）や咬合変化といった副作用が報告されており、とくに TMD の既往や頸機能に問題を抱える患者では、OA が症状の誘発・増悪因子となる可能性がある。そのため、治療導入前のリスク評価と適切な対応が治療アドヒアランス維持の上で重要となる。本講演では、まず TMD の病態分類や診断基準（DC/TMD）を概説し、問診、開口量、関節雜音、頸関節および咬筋の圧痛、画像検査などを用いた術前スクリーニングのポイントを示す。さらに、OA 療法と TMD の関連について、近年の系統的レビューや前向き研究に基づき、OA 療法中にみられる TMD 症状の多くは軽度かつ一過性であり、適切な評価と対応により治療継続が可能であることを紹介する。また、TMD 症状により OA の継続使用が困難となる症例に対しては、下顎位の再評価やタイトレーションの調整、必要に応じた一時的な使用中断などの対応が求められる。本講演では、OA 療法中に TMD 症状が出現した際の具体的な対応方針についても解説する。